第3学年 読むこと①

場面の移り変わりに注意しながら叙述をもとに想像して読み、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くこと

つまずきの実態
～こんな児童の姿が見られませんか？～

伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。

- ①思いつくまま長く書き、伝えたいことが伝わりにくい
- ②まとめることや伝えたいことの要点を絞ることが苦手
- ③「おもしろかった」等、表面的な感想で満足している
- ④叙述をそのまま理由として答える

実践の概要

単元名　心にのこったことを、自分の言葉で表そう
『モチモチの木』光村図書

目標	登場人物の行動や会話から、人物の人柄や気持ちをとらえて読み、心に残ったことを自分の言葉でまとめてポスターに書き入れ、伝え合うことができる。
内容	• 場面ごとに登場人物の人柄や気持ちをとらえ、ワークシートに書いて交流する。 • 一番心に残ったことを、ポスターに表す。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）		つまずきの実態
第6学年	自分の感じたことを、朗読で表現しよう	→	作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。
第5学年	説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう	→	• 本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。 • 自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。
第4学年	段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう	→	段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。
第3学年	**心にのこったことを、自分の言葉で表そう**	→	**伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。**
第2学年	知っていることとつなげて読もう	→	長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が的確に見分けられない。
第1学年	おはなしのおみせやさんごっこをしよう	→	自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

単元末の目指す姿

- 自分の意見を言うとき、根拠となる文を挙げて、そう思った理由を付けて言えるようになる。
- 自分が一番伝えたい内容を短くまとめて伝えられるようになる。
- 自分とは違う意見を聞いて、考え方の違いに気付き、より深く考えることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ❶

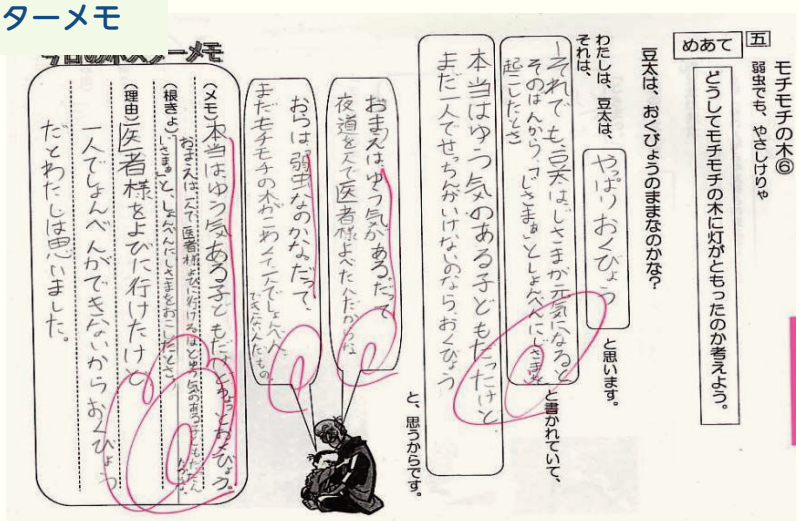
ワークシートに書いて自分の思いを整理させる。

活動のねらい▶ • ワークシートを用いて話す内容を整理する。

ここがポイント

自分の意見に根拠を挙げて話せるように、話す順番通りにワークシートの枠を設定する。そうすることで、自信をもって自分の意見を話すことができる。また、ポスターメモで短く本時の学習をまとめることで、視点を明確にして本時の学習を振り返ることができる。

ポスターメモ



（期待される児童の姿）

話す内容をワークシートに書くことによって、考えを整理することができ、自分の言葉で根拠を挙げて話すことができる。また、ポスターメモとして毎時間のまとめを行うことで短く思いを整理することができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ❷

自分の意見を根拠と理由を挙げて伝える活動を行う。

活動のねらい▶ • 相手にわかりやすく伝えるために、根拠となる文とそう思った理由を付けて伝える。

ここがポイント

- 「勇気がある」「おくびょう」等のキーワードを提示し練り合わせる。
- 最後でまた一人でせっちんに行けなくなっていることから「おくびょう」と答えるなど、表面的な表現にとどまっている場合には、それまでの登場人物の言動を想起させる発問を行い、読みを深めさせる。

授業の様子

僕は、豆太は勇気があると思います。○○と書いてあって、おくびょうな豆太が勇気を出したからじさまを助けることができたからです。

（期待される児童の姿）

自分の考えを伝えるとき、根拠となる文を挙げて、そう思った理由を付けて言えるようになる。